

7月のほけんだより

令和4年7月1日
小平市立小平第二中学校
保健室 No. 4

7月の保健目標

熱中症を予防しよう

暑い夏こそ 早寝・早起き・朝ごはん！

史上最短の梅雨が明けました。急激に暑さが増していますが、みなさん心や体の健康はいかかでしょうか。体がだるい、やる気が出ない、朝から眠くて仕方がない…、なんてことはありませんか？ 暑い季節は、体力・気力ともに消耗しやすいものです。さらに今年の夏も、熱中症の予防とともに新型コロナウイルス感染症の予防も必要です。室内で冷房をつける際は、換気も忘れないようにしてください。密になる環境ではマスクの着用が必要ですが、運動時、熱中症の危険がある場合や息苦しく感じる場合はマスクを外してください。ただし、その際は人との距離を十分とること（2m以上が目安）に配慮してください。

1学期終了まで、残り20日間。睡眠、栄養バランスのとれた食事、適度な運動・休養を行い元気に過ごしていきましょう。

『未だ、全世界が
新型コロナウイルスと戦っています。』



変化も出てきた生活スタイル、再度確認しよう！

- 毎日、健康観察表を持参していますか？
- 必要な場面では、マスクをきちんと着用していますか？
- 清潔なハンカチを持ち歩き、手洗いはしっかりとできていますか？
- 体と心の免疫力を落とさないよう、「睡眠・食事・運動・休養(リフレッシュ)」をバランスよくとっていますか？

定期健康診断が 終了しました。

今年度の定期健康診断が終了しました。（脊柱側弯症・モアレ検診〔2年生〕は、2学期に実施予定です。）様々な健診がありましたが、みなさん健康状態はいかがでしたか。治療のお知らせをもらった人、1枚ももらわなかった人など結果は様々だと思います。治療のお知らせをもらった人は、「病院に行くのが面倒くさい。」「そのうち行こう。」と思うのではなく、この機会に自分の体の状態を知り、感染症対策を行いつつ、早めに治療を始めてください。特に3年生のみなさんは、夏休みが終わると入試に向けた動きが本格的になっていきます。「いざ本番！」になって、歯が痛くなったり、体調を崩したりしては実力を出し切れません。健康診断は受けたら終わりではありませんし、心身ともに健康であってこそ有意義な学校生活を送り、自身の目標に向かって進んでいくことができます。治療のお知らせをもらった人は、早めの受診・治療をお勧めします。なお、治療等が終わりましたら「受診報告書」を学校へ提出してください。

健康カード 返却日(全学年): 7月20日(水)

暑い夏を乗り切るために
自分でできることをしよう

<p>夏のリズムをくずさない</p>	<p>クーラーに当たりすぎない</p>	<p>きちんと水分補給</p> <p>ジュースより お茶・水を！</p>
<p>色の濃い野菜を食べる</p>	<p>朝食をしっかり取る</p>	<p>たんぱく質を効めにとる</p>



たんぱく質は、野菜と
いっしょに食べることで、
栄養の吸収をよくします。



みんなのねがい、
とどくといいね。



ビタミンたっぷり！夏野菜♪
サラダや炒めものなど、積極
的にとりましょう！



～夏に気を付けたい感染症～

熱中症は、屋内でも発症する危険があります！

プール等で感染しやすい病気

咽頭結膜熱（プール熱） 出席停止

アデノウイルスの感染による感染症。プールを介して感染することが多いことから「プール熱」とも呼ばれる。症状は、高熱、のどの腫れ、結膜炎を伴い、かぜにも似た症状が現れる。また、首のリンパ節が腫れ、押すと痛む。

伝染性軟属腫（水いぼ）

伝染性軟属腫ウイルスによる1～10ミリの白色のイボができる病気。かゆみを伴うが、引っかくとつぶれて他の部位に広がるため注意が必要。プールでは、ビート板などを介して感染することがある。特に、アトピー性皮膚炎の子どもの感染しやすい傾向がある。

流行性角結膜炎（はやり目） 出席停止

アデノウイルスの感染による感染症。主に、手を介した接触により感染する。症状は、充血、目やに、ゴロゴロした異物感のほか、発熱を伴う場合もある。予防法は、感染者に接触しないようにして、手洗い、タオルの共有は避けることが大切。感染力が強いので家庭内などでは、特に注意すること。

その他の感染症

ヘルパンギーナ 出席停止

エンテロウイルスの感染による感染症。症状は、39度位の高熱、食欲不振、腹痛、吐き気、頭痛、のどに数ミリほどの水ぶくれができる。濃い塩味や酸味の強い食事は、のどに刺激を与えてしまうので避けたほうがよい。1週間ほどで治るが、その間に高熱や食欲不振を起こしやすいので、水分補給が大切。

伝染性紅斑（りんご病） 出席停止

ヒトパルボウイルスの感染による感染症。感染者の咳やくしゃみなどの飛沫から感染する。症状は、両頬がリンゴのように赤くなる、体に赤い斑点やまだら模様ができ、体が温まるとかゆくなる。発疹などの症状が現れたときは、すでに感染力は消失している。

予防の基本は、手洗いです。
夏も忘れずに行いましょう！

『こんなときに注意！』

- ・ 気温が25℃以上のとき
（30℃以上のときは、特に注意！）
- ・ 湿度が60%以上のとき
- ・ 風が弱いときや風通しが悪い場所
- ・ 睡眠不足や体調不良のときに運動をする

『こんな症状に注意！』

- ・ 頭痛、めまい、ふらつきなど
- ・ 吐き気、嘔吐など ・ 顔色が悪い
- ・ 38℃以上の発熱 ・ 立ち上がれない
- ・ 意識障害
（もうろうとする・反応が鈍い） **重症**



熱中症の応急処置

- ① 涼しい場所へ移動し、足を高くして安静にする。
 - ② 頭、首、わきの下、足のつけ根などを、冷たいタオルや氷のう（氷）などで冷やす。
 - ③ 水分補給をする。（スポーツドリンクなど）
- 回復がみられない場合は、救急車を要請してください。



「のどが渴いた。」と感じた時、すでに体はかなりの脱水状態になっていますので、のどの渴きを感じなくても、こまめに少しずつ水分補給を行うようにしてください。マスク着用時は、マスク内の湿度が上がり、のどの渴きに気付きにくいので要注意です。

熱中症予防

熱中症は梅雨の合間や明けた直後、晴れて暑い日が続くと起きやすくなります。熱中症は「熱に中（あたる）」という意味で、暑熱環境によって起こる体の不調の総称です。

《予防策》

- ① 朝食では、みそ汁や野菜スープなどで塩分補給をする。
- ② 塩分補給も意識して、水分を定期的に補給する（15分～30分に1回）。
- ③ 速乾性の素材の服を着用し、肌を露出しすぎないようにして、外では帽子をかぶる。
- ④ 運動をするときは、定期的に涼しいところで休憩および水分補給を行う。特に運動前に水分を多めにとる（コップ1杯程度の冷たい水分）。
- ⑤ その日の体調に配慮して無理をしない。規則正しい生活を送る。寝不足厳禁！

毎日、水筒を持っていますか？ 決められた中身を持参し、休み時間や運動の前後や合間には、しっかりと水分補給を行ってください。ただし、友達同士での飲み回しは感染予防のため禁止です。自分の健康は、自分自身で管理していきましょう！



ペットボトル症候群とは？

清涼飲料水を大量に飲み続けることによって起こる急性の糖尿病です。症状は、喉の渴きや倦怠感、多尿、嘔吐、腹痛などがあり、重篤な場合は意識混濁や昏睡から死に至ることもあります。スポーツドリンクを普段から水代わりに飲んでいると歯科疾患のリスクだけではなく、医学的な問題も起こりうるので、日常生活では水やお茶を飲むようにしましょう。運動時は、長時間に渡り多量の汗をかく活動でなければお茶や水で水分補給を行いましょ。その日のコンディションや練習内容・強度、天候、気温などに応じて上手に飲み分ける習慣を付けるようにしましょう。



冷房中も換気を忘れず！